

## 思いやりのある生徒

現在は、本校の人権旬間の最中です。人権旬間が始まったのは4月25日のことでした。朝の放送で藤田先生のお話を聞いたり、「共に生きるということ」という動画（YouTube 法務省チャンネル）を視聴したりしました。私も3年生の教室で「共に生きるということ」を観ました。動画の内容を復習しましょう。この動画には、小学校の人権学習にゲストティーチャーとして招かれたKさんが、子供達に「目をつむって水道に行き、水をコップに汲んで飲む」という課題を与える場面がありました。子供達は目が見えないことの不自由さを実感しました。しかし、ご自身も目が不自由なKさんは、次のように子供達にお話をします。「私は子供達に、目が見えなくてもちゃんと一人で歩いて行き、水を汲んで飲むことができる。目の見える人とは、方法が少し違っているけれど、訓練や慣れることで、みんなと同じことが何でもできるということを知って欲しかったのです。」

私自身もこのお話と同様の体験をしたことがあります。以前勤めていた中学校では、ブラインドウォークを授業の一環で行っていました。生徒は2人1組となり、1人はアイマスクを付け、校内の決められたコースを一周してきます。もう1人は、アイマスクを付けた生徒に寄り添い必要に応じてサポートするのです。その時の講師の方もKさんと同じ趣旨のことをお話になりました。「この体験で、目が見えないことの不自由さや恐怖心を感じて欲しいではありません。自分の力で一周できたことの喜び、そして、必要なときのサポートのありがたさを感じて欲しかったのです。」

「必要なときのサポート」について少し補足します。ブラインドウォーク体験では、アイマスクを付けた生徒の手をとり、常に導いていくことが、のぞましいサポートとは限りません。相手と会話や状況の観察を通して、相手が望んでいたり、相手の身の安全を守ったりするなど、必要なときに、本当に必要なサポートをすることが大切なのだと思います。

動画「共に生きるということ」を視聴した後、各教室で感想を書いてもらいました。3年のある生徒は「人それぞれ違った個性をもっていて、その1つ1つを尊重することが大事だと思いました」と書いてくれました。障害は、背が高いとか低いとか、足が速いとか遅いとか、そういうことと同様に「個性」の1つです。日常の学校生活においても、同じ学級・学年・学校の仲間1人1人の個性を認め、大切にすることが、人権旬間初日に藤田先生がお話してくれた「人権の尊重」につながるのです。

そして、仲間が困っているなど、サポートを必要としているときには、相手を大切に思う気持ちを言葉や行動にして伝えてください。それが、本当の思いやりなのだと思います。宮澤章二さんの詩「行為の意味」には、次のような一節があります。

〈ころろ〉はだれにも見えない / けれど〈ころろづかい〉は見えるのだ  
同じように胸の中の〈思い〉は見えない / けれど〈思いやり〉はだれにでも見える

三尻中学校の学校教育目標の1つは「思いやりのある生徒」です。仲間を大切に思う気持ちを言葉や行動に表した〈思いやり〉にあふれる学校であって欲しいです